

令和 2 年 7 月 3 日現在

機関番号：11302

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16H03051

研究課題名(和文)産直が拓く環境教育の新たな地平：「遊び仕事」の現代的活用をめざして

研究課題名(英文)The new horizon of environmental education opened through farmer's markets:
aiming to invent the contemporary utilization of "Minor Subsistence"

研究代表者

溝田 浩二 (Mizota, Koji)

宮城教育大学・教員キャリア研究機構・准教授

研究者番号：00333914

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、日本各地の農山漁村で展開されている「遊び仕事(マイナー・サブシステンス)」に内包されている生物資源利用に関する知恵や技術を明らかにするとともに、それらを環境教育の視点から再評価し、「遊び仕事」を題材とした環境教育プログラムを作成、実践した。また、「遊び仕事」によって狩猟採集・飼育栽培された商品が集積される産地直売所(産直)は、地域の生物文化多様性を可視化するウィンドウとして機能しており、環境教育のすぐれたフィールドとなりうることを示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本における従来の環境教育は、そのフィールドを国内の身近な環境に求めながらも、ベースとなる環境思想や環境教育プログラムは、先進地である欧米をモデルとしてきた。そのため、日本独自の自然観や生活知を基盤とした環境教育の構築が待望されてきた。本研究では、地域の食・農・文化をつなぐ拠点である産地直売所と、そこに集積されている「遊び仕事」に内包される在来知を題材とした環境教育を推進することにより、環境教育分野に新たな視点をもたらした。

研究成果の概要(英文)：Knowledge and techniques using biological resources enclosed in "Minor Subsistence" in various Japanese villages, were revealed and reevaluated through the viewpoint of environmental education. Environmental educational programs subjected on "Minor Subsistence" were also created and executed. In the present study, we showed that farmer's markets displaying products by hunting-gathering, rearing and cultivation are working as windows visualizing local biodiversity and potentially available as excellent fields for environmental education.

研究分野：環境教育

キーワード：遊び仕事 環境教育 産地直売所 在来知

1. 研究開始当初の背景

1992年の地球サミットにおいて持続可能な発展が提起されて以降、自然共生型ライフスタイルを志向した研究が行われるようになった。環境民俗学の視点からは、松井 健、鬼頭秀一、篠原 徹らが「遊び仕事」の概念を提唱し、その今日的な意味を自然との共生という視点から見直す動きが始まっている。「遊び仕事」とは農山漁村で営まれている山菜採り、キノコ採り、川や池での漁撈、伝統的な養蜂といった副次的・周縁的な生業（マイナー・サブシステム）のことである。自然と密接で直接的な関係をもつ、簡単なしかけと高度な技法が求められる、経済的意味に還元できないような誇りや喜びを包含する、遊びの要素が強い、伝統的で長い歴史をもつといった特徴があり、そこには日本独自の自然観や生活知が凝縮されている。

ところで、日本における従来の環境教育は、そのフィールドを国内の身近な環境に求めながらも、ベースとなる環境思想や環境教育プログラムは先進地である欧米をモデルとしてきた。そのことから、日本学術会議は繰り返し「日本独自の自然観や生活知を基盤とした環境教育を展開していくべきである」との提言を行っている。しかし、日本の環境教育分野が抱えるこの慢性的な問題の解決に向けて取り組まれてきた幾多の努力にも関わらず、その抜本的な改善がみられないのが現状である。

このような背景から、研究代表者らは、「遊び仕事」に内包される伝統技術や文化を巻き込んだ環境教育の展開を模索しはじめた。たとえば、長崎県対馬市で「遊び仕事」として営まれているニホンミツバチの伝統養蜂には、養蜂家たちが長い時間をかけて育ててきた〈在来知〉が存在している。そして、その営みは人々に多くの恩恵をもたらしながら地域生態系の保全にも大きく貢献している（溝田,2014）。先人たちは暮らしをとりまく自然との深い関わりのなかで「遊び仕事」という文化を成立させ、継承してきたのであるが、現在、その文化が次の世代へとスムーズに受け継がれていないことも明らかとなってきた。地域の重要な伝統文化を継承していくためにも、「遊び仕事」を題材とした環境教育の果たす役割はきわめて大きいと考えられた。



「遊び仕事」として営まれている伝統養蜂

2. 研究の目的

本研究では、日本の農山漁村で伝統的に営まれてきた副次的・周縁的な生業（マイナー・サブシステム）である「遊び仕事」と、そこに凝縮されている生物資源の複合的利用に関する〈在来知〉に焦点をあてた。人々に精神的な豊かさをもたらしつつ、持続可能な社会を築くためのヒントを与えてくれる「遊び仕事」の営みを、環境教育の視点から再評価し、日本独自の自然観や生活知を基盤とした環境教育の構築を目指した。

本研究の最大のネックとなるのが、「遊び仕事」の事例収集である。「遊び仕事」は日本各地の農山漁村でひっそりと、目立たない形で行われていることが多いため、それらの実践場面に立ち会うことはきわめて困難だからである。そこで、本研究では、産地直売所（以下、産直）に着目することにより、「遊び仕事」の事例収集を効率的に行う工夫を試みた。産直は全国に約17,000店あり、地域の食・農・文化をつなぐ重要な拠点となっている。「遊び仕事」による成果物が集積する場、地域の生物文化多様性を映し出すミュージアムのような存在でもあることから、短期間で、集約的に“自然と人との共生関係”を把握することが可能になると考えられた。産直に商品を卸している生産者との交流も実現しやすいため、聞き取り調査やフィールド観察をスムーズに実施することができる。本研究では、産地直売所と、そこに集積されている「遊び仕事」を題材とした環境教育の展開を目指した。

3. 研究の方法

(1) 産直における「遊び仕事」由来の商品調査

日本有数の規模を誇る産直として知られる「産直市場グリーンファーム（長野県伊那市、以下 GF）」において、年間をとおしてどのような商品が販売されているかを調査した。特に、「遊び仕事」によって狩猟採集あるいは飼育栽培された商品について重点的にデータを収集した。さらに、GFの小林史磨会長をはじめとするスタッフへのヒアリング調査、登録生産者へのアンケート調査も実施した。



GFにおける「遊び仕事」由来の商品調査

(2) 「遊び仕事」に関するフィールド調査

GFで販売されている「遊び仕事」由来の商品に関する情報を手がかりとして、伊那市周辺地域で展開されている「遊び仕事」の全体像を把握した。具体的な「遊び仕事」の事例として、ニホンミツバチ伝統養蜂、クロスズメバチ狩り、ザザムシ漁、山菜採り、キノコ採り、川やため池における伝統漁などが展開されていることがわかった。生産者へのヒアリング調査、フィールドでの参与観察を行い、「遊び仕事」が展開されている場所、時期、方法などの情報を把握した。また、それらに内包されている〈在来知〉について抽出を行った。



天竜川で真冬に行われるザザムシ漁

(3) 環境教育プログラムの作成と実践

(1)(2)で得られた研究成果を基盤として、「遊び仕事」を次世代へ継承しながら日本の環境教育分野が抱えるこの慢性的な問題の解決することを目指し、生物利用をめぐる〈在来知〉に着目した、日本独自の自然観や生活知を基盤とした環境教育プログラムを作成した。

4. 研究成果

(1) 産直における「遊び仕事」の事例収集

GFで販売されていた商品は、野菜、果物、山菜、キノコ、郷土食[蜂の子、イナゴ、ザザムシ、カイコ等]、食肉[牛、豚、鶏、馬、ツキノワグマ、シカ、イノシシ、ダチョウ等]、魚、乳製品、卵、ハチミツ、米、塩、味噌、調味料、書籍、生花、鉢花、山野草、野菜苗、種、椎茸、原木、雑貨、農業資材、農機具、工芸品、縄飾り、箒、籠、箆、骨董品、民具、生きた動物[合鴨、ヤギ、ウサギ、ニワトリ、コイ、フナ、イワナ、ヤマメ、カブトムシ、クワガタムシ等]、薪、庭石など多岐にわたっていた。「遊び仕事」により狩猟採集・飼育栽培された商品としては、昆虫類(スズメバチ類、イナゴ、ザザムシ)、ハチミツ、淡水魚類、野生キノコ類、山菜類、果実・ナッツ類など、多彩な商品が季節に応じて販売されていた。登録生産者を対象としたアンケート調査からは、「遊び仕事」として営まれている狩猟採集活動は、飼育栽培を実践している人々によって牽引されていることが明らかになった。【林 守人・溝田浩二(2020)「遊び仕事」のかたち：産直商圏にみる狩猟採集と飼育栽培.宮城教育大学環境教育研究紀要,22:23-30】

(2) 「遊び仕事」に関するフィールド調査

GFで販売されている「遊び仕事」由来の商品情報を手がかりとして、伊那市周辺で展開されている「遊び仕事」の全体像を把握した。本研究では、ニホンミツバチの伝統養蜂、ハチ追い(クロスズメバチ狩り)、ザザムシ漁、イナゴ採り、山菜・キノコ採りなどについて、生産者へのヒアリング調査、フィールドでの参与観察を行った。いずれの「遊び仕事」においても、それに携わる人々は、深い洞察力で自然環境を読みとる、創意工夫を重ねながら道具をつくり出す(毎年少しずつ進歩させる)、楽しみながら対象を追いかける、自らの思考力と経験値から論理を組み立てる、対象の気持ちを想像・理解する、繊細な自然に優しく向き合う、といった共通点がみられた。これらすべてのプロセスの中に〈在来知〉や環境教育を行う上で大切なエッセンスが凝縮されていることが明らかになった。【Mizota,K.(2019)Indigenous knowledge inherent in traditional beekeeping as minor subsistence in Tsushima Island, Japan. 4th South Africa-Japan University Forum, University of Pretoria, South Africa, 溝田浩二(2019)ニホンミツバチ養蜂のこれまでとこれから. *aromatopia*, 156:50-53】

(3) 環境教育プログラムの作成と実践

「遊び仕事」の事例としてハチ追い(クロスズメバチ狩り)を取り上げ、そのプロセス全体を体験する環境教育プログラムを作成、実践した。夏季に餌づけ・飛ばし・追跡・巣の掘り出し・巣箱への移植、飼育を、秋季に収穫・ハチノコ抜き出し、調理をそれぞれ行う内容である。クロスズメバチの食文化が残る中部地方で長年ハチ追いを続けているベテランに指導を受けながら、「遊び仕事」としてのハチ追いを体験した。この環境教育プログラムは、日本の風土に最適化された、身近な生活知への興味を喚起するユニークなものであり、誰にでも実践可能なものである。学習指導要領において新たに盛り込まれたアクティブ・ラーニングの良質な題材ともなり、日本の環境教育の推進にとって新たな展開が期待できるという確信を得ることができた。【溝田浩二(2018)ハチ追いをとおして「遊び仕事」と環境教育をつなぐ.宮城教育大学環境教育研究紀要,20:27-34】



ハチ追い(餌づけ、飛ばし)の体験

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計25件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 林 守人・溝田浩二	4. 巻 22
2. 論文標題 「遊び仕事」のかたち：産直商圈にみる狩猟採集と飼育栽培	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 宮城教育大学環境教育研究紀要	6. 最初と最後の頁 23-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 溝田浩二	4. 巻 156
2. 論文標題 二ホンミツバチ養蜂のこれまでとこれから	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 aromatopia	6. 最初と最後の頁 50-53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 溝田浩二・宍戸佳央理・片平みちる	4. 巻 22
2. 論文標題 宮城教育大学附属幼稚園の樹木とその環境教育への活用	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 宮城教育大学環境教育研究紀要	6. 最初と最後の頁 31-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Hayashi, M.	4. 巻 21 (1)
2. 論文標題 Simple simulation model: Successful water borne dispersal in terrestrial spiders to reach lake islands	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 The Journal of Island Studies	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村山史世・谷津直生	4. 巻 31
2. 論文標題 散乱ごみの実態調査によるアダプト・プログラムの効果測定	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 麻布大学雑誌	6. 最初と最後の頁 35-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 村山史世・渡邊菜乃花	4. 巻 14
2. 論文標題 2030アジェンダ・SDGsを自分事化するためのツールの開発 第2報 SDGsレンズ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本環境教育学会関東支部年報	6. 最初と最後の頁 53-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石井雅章・陣内雄次・村山史世・長岡素彦	4. 巻 18 (1)
2. 論文標題 若者の学びが創出するローカル・ガバナンスの可能性	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 関係性の教育学	6. 最初と最後の頁 51-70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小関一也	4. 巻 74
2. 論文標題 SDGs: 子どもたちに育みたい力	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 この本読んで!	6. 最初と最後の頁 32-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 溝田浩二・高橋麻衣子・野中健一	4. 巻 21
2. 論文標題 幼稚園における端材を活用した「木育」の実践	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 宮城教育大学環境教育研究紀要	6. 最初と最後の頁 39-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林 守人・溝田浩二	4. 巻 21
2. 論文標題 内容の意外性が講義の全体像認識に与える効果	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 宮城教育大学環境教育研究紀要	6. 最初と最後の頁 47-53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Echenique-Diaz, L. M. & Mizota, K.	4. 巻 21
2. 論文標題 Stingless Bee Keeping as an Occupational Hobby and Sustainable Agrotourism in Cuba : A Case Study	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 宮城教育大学環境教育研究紀要	6. 最初と最後の頁 55-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村山史世	4. 巻 9
2. 論文標題 現実の課題に基づいた学びとしての PBL、 ESD と共生教育	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 共生科学	6. 最初と最後の頁 63-73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 西城 潔・古市剛久	4. 巻 70
2. 論文標題 地形地質と里山利用を題材にした自然観察会の試み	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 季刊地理学	6. 最初と最後の頁 102-108
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 西城 潔・新田隆一・安孫子啓・亀井 文	4. 巻 21
2. 論文標題 公開講座『竹であそぼう 竹に学ぼう』 - 竹を活用した環境教育プログラム開発の試み	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 宮城教育大学環境教育研究紀要	6. 最初と最後の頁 5-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 古市剛久・西城 潔	4. 巻 21
2. 論文標題 「地表の形」に注目する地域地形観察会を通じた環境教育および地理教育	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 宮城教育大学環境教育研究紀要	6. 最初と最後の頁 11-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 奥山 永・高橋稜一・中濱直之・大場伸也・清 卓哉・溝田浩二・高橋純一	4. 巻 80
2. 論文標題 対馬島に生息する絶滅危惧昆虫 4 種のDNAバーコード領域 (ミトコンドリアDNA CO1領域) の塩基配列報告	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 長崎県生物学会誌	6. 最初と最後の頁 7-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 溝田浩二	4. 巻 20
2. 論文標題 八子追いをとおして「遊び仕事」と環境教育をつなぐ	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 宮城教育大学環境教育研究紀要	6. 最初と最後の頁 27-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 溝田浩二	4. 巻 20
2. 論文標題 地域教材の活用をテーマとした授業実践	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 宮城教育大学環境教育研究紀要	6. 最初と最後の頁 35-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小沼佳菜実・八月朔日 誠司・小野寺 仕・溝田浩二	4. 巻 20
2. 論文標題 鳴く昆虫をテーマにした環境教育の実践(2)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 宮城教育大学環境教育研究紀要	6. 最初と最後の頁 39-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西城 潔・井上芳樹	4. 巻 20
2. 論文標題 伊那炭化式薪ストーブ炭焼き法の開発 - 環境教育への展開を目指して -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 宮城教育大学環境教育研究紀要	6. 最初と最後の頁 1-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 溝田浩二	4. 巻 19
2. 論文標題 二ホンミツバチ伝統養蜂を題材とした環境教育の実践(2)ーひらめき ときめきサイエンス2016を実施してー	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 宮城教育大学環境教育研究紀要	6. 最初と最後の頁 11-18
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 八月朔日 誠司・小野寺 仕・溝田浩二	4. 巻 19
2. 論文標題 鳴く昆虫をテーマにした環境教育の実践	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 宮城教育大学環境教育研究紀要	6. 最初と最後の頁 19-23
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Echenique-Diaz, L. M. & Mizota, K.	4. 巻 19
2. 論文標題 Endangered species, protected areas and tourism in Cuba	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Research Bulletin of Environmental Education Center, Miyagi University of Education	6. 最初と最後の頁 39-41
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西城 潔・古市剛久	4. 巻 11
2. 論文標題 巡検第3班 仙台周辺の里山 大松沢丘陵の地形・自然資源とその利用/改変/保全	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 E-journal GEO	6. 最初と最後の頁 577-580
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西城 潔	4. 巻 19
2. 論文標題 放置竹林を活用した環境教育の取組み - 2015年度小専生活での実践例 -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 宮城教育大学環境教育研究紀要	6. 最初と最後の頁 5-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計59件 (うち招待講演 8件 / うち国際学会 2件)

1. 発表者名 溝田浩二
2. 発表標題 「遊び仕事」に環境教育のヒントを求めて
3. 学会等名 第3回日本環境教育学会東北支部大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 溝田浩二・Echenique-Diaz, L. M.
2. 発表標題 ハリナシバチはすごい - キューバの“ささない”ミツバチのおはなし
3. 学会等名 ミツバチサミット2019
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 溝田浩二
2. 発表標題 対馬でのミツバチ研究からみえてきた西表島の生態系の特異性
3. 学会等名 日本島嶼学会宮古島大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中野智保・溝田浩二
2. 発表標題 高校生による野生動物保全に向けた生態調査の実践：みんなで守ろう！城南のトウホクサンショウウオ
3. 学会等名 日本環境教育学会第30回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 溝田浩二
2. 発表標題 昆虫をめぐる「深い遊び」に環境教育のヒントを求めて
3. 学会等名 日本環境教育学会第30回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Mizota, K.
2. 発表標題 Indigenous knowledge inherent in traditional beekeeping as minor subsistence in Tsushima Island, Japan
3. 学会等名 4th South Africa-Japan University Forum (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西城 潔
2. 発表標題 丘陵地の地形の成り立ちと人の里山利用
3. 学会等名 日本第四紀学会シンポジウム (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西城 潔
2. 発表標題 山岳地域における炭焼きの痕跡と植生景観への影響について
3. 学会等名 第17回日本山岳文化学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西城 潔・阿部壽夫
2. 発表標題 水産業由来の竹廃材による炭焼きとその地理教育への展開の可能性
3. 学会等名 東北地理学会・北海道地理学会合同大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西城 潔・古市剛久・今野明咲香
2. 発表標題 地上レーザー測量(TLS)で識別される丘陵谷頭部の微細地形
3. 学会等名 日本地球惑星科学連合 2019年度大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西城 潔
2. 発表標題 牡蠣養殖業より発生する竹廃材の地域資源化の試み
3. 学会等名 日本地球惑星科学連合 2019年度大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西城 潔・溝田浩二
2. 発表標題 天竜川上流域のざざ虫漁に関わる河川環境
3. 学会等名 東北地理学会 2019年度春季学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小関一也
2. 発表標題 産地直売場で実施する環境教育：長野県伊那市の産直市場グリーンファームを事例として
3. 学会等名 日本環境教育学会第30回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小関一也
2. 発表標題 ライフストーリーを通して学ぶ難民問題：人として出会うことで、難民問題と出会いなおす
3. 学会等名 第29回日本国際理解教育学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 村山史世
2. 発表標題 みがくSD研とSDGsレンズ
3. 学会等名 社会情報学会社員総会シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 村山史世
2. 発表標題 アダプト・プログラムとガバナンス SDGsの観点から
3. 学会等名 コミュニティ政策学会第18回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 村山史世
2. 発表標題 SDGsレンズとは何か、どうすれば手に入るのか
3. 学会等名 日本計画行政学会ワークショップ
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 村山史世
2. 発表標題 SDGs・アジェンダ・コミュニティガバナンス
3. 学会等名 コミュニティ政策学会関東研究支部 第2回研究・実践情報交流会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 村山史世
2. 発表標題 ガバナンスへの参画を学びとして構成する 地域と連携したPBLの一側面
3. 学会等名 第25回大学教育研究フォーラム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 溝田浩二
2. 発表標題 二ホンミツバチ伝統養蜂にみられる飼養形態の多様性と地域性
3. 学会等名 東北地理学会 2018年度春季学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 溝田浩二・野中健一
2. 発表標題 東濃地域の森林文化・食文化にまなぶ環境教育(1)クロスズメバチを採り、育て、味わう
3. 学会等名 日本環境教育学会第29回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高橋麻衣子・溝田浩二・三浦八郎・野中健一
2. 発表標題 東濃地域の森林文化・食文化にまなぶ環境教育(2)森の恵みと保育をつなげる
3. 学会等名 日本環境教育学会第29回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 溝田浩二・Lazaro M. Echenique-Diaz・林 守人
2. 発表標題 超大型ハリケーン・イルマの襲来にキューバの人々はどうに対応したか
3. 学会等名 日本島嶼学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 溝田浩二
2. 発表標題 伝統的な昆虫食を題材とした環境教育の可能性
3. 学会等名 第2回日本環境教育学会東北支部大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 溝田浩二
2. 発表標題 100年前の日本人はどんな昆虫を食べていたのか？
3. 学会等名 島嶼コミュニティ学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 村山史世
2. 発表標題 地域コミュニティのガバナンスによそ者・若者が参画すること
3. 学会等名 日本地方自治研究学会関東支部会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 村山史世
2. 発表標題 遊び仕事から地域のサブスタンスをたどる学び 共生教育としてのESDの一実践
3. 学会等名 日本共生科学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 村山史世
2. 発表標題 2030アジェンダ・SDGsを活用して地域の未来を共創するために 地方自治体政策へのSDGsの実装に向けて
3. 学会等名 日本計画行政学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 村山史世
2. 発表標題 よそ者・若者と地域に共創された地域デザイン 師弟同行型PBLの軌跡
3. 学会等名 日本地方自治研究学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 村山史世
2. 発表標題 水源地での取り組みから考えるSDGsと地域社会の接合
3. 学会等名 環境情報科学学術研究発表会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 村山史世
2. 発表標題 ガバナンスへの参画を学びとして構成する 地域と連携したPBLの一側面
3. 学会等名 第25回大学教育研究フォーラム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西城 潔・今野明咲香
2. 発表標題 山岳地域における過去の人為作用とその影響 炭焼きの痕跡を例 に
3. 学会等名 日本地球惑星科学連合 2018年度大会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 西城 潔・井上芳樹
2. 発表標題 牡蠣養殖伐由来の廃材を活用した炭焼きの取組みと展望
3. 学会等名 第16回木質炭化学会研究発表会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 西城 潔
2. 発表標題 松島湾の牡蠣養殖における竹利用と廃材の地域資源化の試み
3. 学会等名 第2回日本環境教育学会東北支部大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小関一也
2. 発表標題 ライフストーリーというアプローチの可能性 - 人生の物語が重なり合う時に生まれる教育力
3. 学会等名 日本国際理解教育学会「難民問題から国際理解教育を問う」プロジェクト 第8回公開研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 溝田浩二
2. 発表標題 なぜ「産直」が環境教育の新規フィールドとして注目されるのか？
3. 学会等名 日本環境教育学会第28回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 小関一也
2. 発表標題 産地直売場をフィールドとする環境教育プログラムの開発とアクティブ・ラーニングの可能性
3. 学会等名 日本環境教育学会第28回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 村山史世
2. 発表標題 状況的学習としてのESDと地域共創
3. 学会等名 日本環境教育学会第28回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 西城 潔
2. 発表標題 未利用材を活用した簡易炭焼きによる環境学習
3. 学会等名 日本環境教育学会第28回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 溝田浩二
2. 発表標題 産直はおもしろい!
3. 学会等名 日本環境教育学会第28回大会(自主課題研究『産直が拓く環境教育の新たな地平』)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 林 守人
2. 発表標題 昆虫食は人を幸せにするか - ビッグデータの自動解析から発掘するデータの個性 -
3. 学会等名 日本環境教育学会第28回大会(自主課題研究『産直が拓く環境教育の新たな地平』)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 西城 潔
2. 発表標題 産直に着目した環境教育の地理学的背景
3. 学会等名 日本環境教育学会第28回大会(自主課題研究『産直が拓く環境教育の新たな地平』)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 村山史世
2. 発表標題 『遊び仕事』から生業と生活のシステムを再構成すること
3. 学会等名 日本環境教育学会第28回大会(自主課題研究『産直が拓く環境教育の新たな地平』)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 小関一也
2. 発表標題 産直発の環境教育プログラムの開発：子どもたちによる「遊び仕事」の実践を基軸として
3. 学会等名 日本環境教育学会第28回大会（自主課題研究『産直が拓く環境教育の新たな地平』）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 溝田浩二・林 守人・Echenique-Diaz,L.M.
2. 発表標題 キューバの人々は“満を持して”災害を迎える：超大型ハリケーン「イルマ」への対応から
3. 学会等名 島嶼コミュニティ学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Mizota, K.
2. 発表標題 What is the diet of Almiqui?
3. 学会等名 Symposium of Almiqui research, Museo de Historia Natural Tomas Romay, Santiago de Cuba, Cuba (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Hayashi, M.
2. 発表標題 Flying sailors impacting on global ecosystems
3. 学会等名 Symposium of Almiqui research, Museo de Historia Natural Tomas Romay, Santiago de Cuba, Cuba (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Echenique-Diaz,L.M.
2. 発表標題 Almiqui, Solenodon cubanus
3. 学会等名 Symposium of Almiqui research, Museo de Historia Natural Tomas Romay, Santiago de Cuba, Cuba (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Echenique-Diaz,L.M. and Mizota, K.
2. 発表標題 Stingless Bee Honey Keeping and Nature Conservation in Cuba: Challenges and Opportunities
3. 学会等名 Symposium of Stingless Bees, University of Bogota, Colombia (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 村山史世
2. 発表標題 学校と地域の重複領域での状況的学習と価値の共有・共創
3. 学会等名 第24回大学教育研究フォーラム
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 西城 潔・古市剛久
2. 発表標題 宮城県大衡村「昭和万葉の森」における地形・環境調査の経過と課題
3. 学会等名 東北地理学会 2017年度春季学術大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 溝田浩二
2. 発表標題 対馬の伝統養蜂からみえてきた「ツシマヤマネコの普遍性」と「イリオモテヤマネコの特殊性」
3. 学会等名 東北地理学会 2017年度春季学術大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 西城 潔・古市剛久
2. 発表標題 丘陵地谷頭部にみられる炭焼き由来の人工微細地形 - 宮城県大松沢丘陵の例 -
3. 学会等名 日本地球惑星科学連合 2017年度大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Furuichi T., Saijo K. and Tamura T.
2. 発表標題 Temporal variation of filling processes of valley-head hollows in the Ohmatsuzawa Hills, Sendai, northeastern Japan
3. 学会等名 JpGU-AGU Joint Meeting 2017 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 溝田浩二
2. 発表標題 産直が拓く環境教育の新たな地平 遊び仕事の現代的活用をめざして
3. 学会等名 日本環境教育学会第27回大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 溝田浩二
2. 発表標題 似て非なるヤマネコが暮らす二つの島 在来種ミツバチがいる島・いない島
3. 学会等名 島嶼コミュニティ学会（やんばる大会）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 成田智哉・溝田浩二・田幡憲一
2. 発表標題 チョウの幼虫の頭・胸・腹を追究させる 設営6年目のバタフライガーデンを活用した授業プログラム
3. 学会等名 日本生物教育学会第101回全国大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 西城 潔
2. 発表標題 放置竹林を活用した教員養成大学での環境教育の試み
3. 学会等名 日本環境教育学会第27回大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 林 守人
2. 発表標題 溶岩に乗るカタツムリと波に乗るクモの成功秘話 - 生物進化における地質・環境のインパクト -
3. 学会等名 地層科学研究所創立20周年記念講演（招待講演）
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 長嶋俊介編集、溝田浩二（分担執筆）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 藤原書店	5. 総ページ数 477（245-247、384-386、423-425）
3. 書名 日本ネシア論（三陸ネシアの動物と人々の暮らし、日本海ネシアの陸上動物：本土ネシアとの差異と多様、北ネシアの陸上動物：保護と利用）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	西城 潔 (Saijo Kiyoshi) (00241513)	宮城教育大学・教育学部・教授 (11302)	
研究分担者	村山 史世 (Murayama Fumiyo) (60318889)	麻布大学・生命・環境科学部・講師 (32701)	
研究分担者	ラザロ エチェニケディアズ (Echenique-Diaz Lazaro) (60567650)	宮城教育大学・教員キャリア研究機構・研究員 (11302)	
研究分担者	林 守人 (Hayashi Morito) (70625037)	宮城教育大学・教員キャリア研究機構・研究員 (11302)	
研究分担者	小関 一也 (Oseki Kazuya) (80267434)	常磐大学・人間科学部・准教授 (32103)	